



デジタル名刺は本格普及するか？

北陸銀行 国際部
シンガポール駐在員事務所
所長 上原 清志

1. はじめに

最近、シンガポールでは名刺のデジタル化が徐々に広まっているようです。いわゆる紙名刺をスキャンしてデータ化という話ではなく、完全にデジタル化された名刺を指します（日本でも普及し始めているNFC名刺^(※1)とは別もの）。まだ紙名刺での交換が大勢を占めていますが、民間の営業マンやシンガポール政府職員などがデジタル名刺を利用し始めており、評判は悪くないようです。

私たち日本人からすると名刺交換は大切なコミュニケーション手段ですが、非接触によるデジタルならではの幅広い使い方やサステナビリティの観点から当地で注目され始めたデジタル名刺について、少しご紹介いたします。

(※1)NFC名刺：Suicaなどに使われているNFC(Near Field Communication、近距離無線通信)技術を利用したカード型デジタル名刺で、専用のカードにスマートフォンをかざすことで名刺情報を相手に共有できる。



2. シンガポールのデジタル名刺事情

相当数のシンガポール企業が通常の紙名刺に加えてデジタル名刺の使用(併用)を導入し始めています。導入の大きな動機付けとして、いわゆる印刷コストやカーボンフットプリント^(※2)の削減につながる事が挙げられます。

シンガポールにある最大手不動産業者では、営業活動のために約1万人いる社員が一人当たり年間500枚名刺を配るため、年間500万枚の名刺を印刷注文しているようです。同業者は徐々にデジタル名刺に移行していく方針ですが、大幅なコスト削減と環境への貢献につながると見込んでいます。

シンガポール政府職員も100名近くが既にデジタル名刺を活用しているようです。受取側も概ね好印象らしく、登録に関わる費用も無料となっています。

では、デジタル名刺は具体的にどのようなものでしょうか。上記不動産業者では約1万1,000人いる社員の身分証明書(IDタグ)にQRコードが印刷してあり、クライアントにスキャンしてもらうことでデジタル名刺を渡す仕組みです。デジタル名刺には顔写真や連絡先などの基本情報に加えて自己紹介動画やSNSアカウントへのリンクも表示できます。

データ内容をいつでも簡単にアップデート出来たり、色々な媒体と連携出来たりと自己PRにはとても便利のように見えます。ただし、内容については一定のルール付けが必要だと感じます。また、シンガポールはデジタル戦略が徹底しており、この仕組みを導入・発展することは容易ですが、他国クライアントに対してもデジタル名刺を活用できるかは分かりません。よって、紙名刺とデジタル名刺のハイブリッド型が当面の主流だろうと予想します。



デジタル名刺見本(出所: Channel News Asia)

(※2)カーボンフットプリント：CFPと呼ばれ、商品やサービスのライフサイクルを通じて排出される温室効果ガスの排出量をCO₂に換算したものの。

3. おわりに

今回はシンガポールデジタル名刺について簡単に紹介しました。初対面などで名刺交換がスマートフォンでお互いQRコードスキャンというのも味気ない感じもしますが、その後の管理を含めた負担は全く違ってきます。

一方で、名刺印刷業界では新型コロナ禍で落ち込んだ名刺注文が最近増加しているという現地ニュースもあります。デジタル名刺の利便性は実感しているが、紙名刺の重要性もまだ捨てきれないというのが実態だろうと思います。

また、日本ではNFC名刺を相手のスマートフォンにかざすことでデジタル名刺を渡す動きが普及し始めているようです。NFC型にしるQRコード型にしる、シンガポールのようにデジタル名刺導入を進めていくには、今まで慣れ親しんだ紙名刺交換でのコミュニケーション効果とデジタル名刺導入によるコスト削減・サステナビリティ効果などの比較検討がまず第一歩と考えます。

<ご注意>文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。

記載内容についてはご利用者のご判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

ほくりく長城会

海外ビジネス情報

発行：北陸銀行 ほくりく長城会事務局
〒920-0024 金沢市西念1-1-3 コンフィデンス4F
(株)人材情報センター内)
TEL: (076)254-6500 FAX: (076)254-6565
E-mail: info@chojo-hokugin.jp